

日本子ども社会学会

第19回大会 プログラム

2012年6月30日（土）・7月1日（日）

國學院大學

日本子ども社会学会 第19回大会

大会の日程

1. 期 日 2012年6月30日(土)・7月1日(日) 2日間
2. 会 場 國學院大學 たまプラーザキャンパス：横浜市青葉区
3. 日 程
 - 前 日 6月29日(金)
 - 15:00～16:50 各種委員会 (2号館5F 2512教室)
 - 会計監査 (2号館5F 2511教室)
 - 17:00～19:00 理事会 (2号館5F 2512教室)
 - 第1日 6月30日(土)
 - 9:00～ 受付 (1号館エントランスホール)
 - 9:30～12:00 **研究発表Ⅰ**－1～4 (1号館B2F)
 - 12:00～12:50 総会 (1号館B2F 101教室)
 - 12:50～13:40 昼食
 - 13:40～17:30 **研究発表Ⅱ**－1 (1号館B2F)
 - 13:40～15:20 **研究発表Ⅱ**－2, 3 (1号館B2、B1F)
 - 15:30～17:30 **テーマセッションⅠ**－1, 2 (1号館B2F)
 - 17:40～19:40 懇親会(若木21・レストランヒルトップ(構内))
 - 第2日 7月1日(日)
 - 9:00～ 受付 (1号館エントランスホール)
 - 9:30～12:00 **研究発表Ⅲ**－1～4 (1号館B2F)
 - 12:00～13:20 昼食 評議会、各種委員会 (1号館2F)
 - 13:20～15:20 **公開シンポジウム** (1号館2F AV1教室)
 - 15:30～17:30 **テーマセッションⅡ** (1号館2F 407教室)
 - ラウンドテーブル (1号館2F 408教室)

ご案内

1. 会場

國學院大學（たまプラーザキャンパス：横浜市青葉区）

4・5ページの地図・案内図をご覧ください。

2. 大会実行委員会連絡先

〒225-0003 神奈川県横浜市青葉区新石川 3-22-1

國學院大學 人間開発学部 初等教育学科 新富研究室 気付

日本子ども社会学会第19回大会実行委員会

TEL・FAX(兼用) 045-904-7735（新富研究室直通）

E-mail yshintomi@kokugakuin.ac.jp

入会、会費納入などに関する相談・問い合わせは、下記の日本子ども社会学会事務局へお願いします。

日本子ども社会学会 事務局

〒114-0033 東京都北区十条台1-7-13

東京成徳大学子ども学部 永井（聖）研究室 気付

FAX：03-3907-6195

郵便振替口座：01760-1-85048

E-mail：jscs@kodomo-cu.jp

学会ホームページ：<http://js-cs.jp/>

*事務局へのご連絡は、葉書、FAX、E-mail等で行います。

3. 大会参加申し込みおよび参加費

同封の参加申し込み葉書にて、6月25日（月）までにお申し込み下さい。

大会参加費 学会員 3,500円

臨時（当日）会員 3,500円

（公開シンポジウム、テーマセッションのみ参加の場合は無料）

懇親会費 一般 4,000円 大学院生 3,000円

*今年度は事前の参加費等の振り込みは実施しません。

4. 受付

6月30日（土）・7月1日（日）9:00～16:00

國學院大學1号館1階エントランスホールにて受付を行います。

5. 懇親会

6月30日（土）17:40～ 若木21・レストランヒルトップにて開催します。

参加費 4,000円 大学院生 3,000円

参加ご希望の方は、同封の参加申し込み葉書にてお申し込み下さい。

6. 研究発表

個人（1人）発表 20分・質疑応答 5分・計 25分

共同（発表者2人以上）発表 40分・質疑応答 10分・計 50分

7. 発表取り消し（欠席）

発表を取り消す（発表者が欠席する）場合は6月29日（金）までに大会実行委員会までメール等でお知らせ下さい。なお、発表取り消しについては「学会ニュース」にその旨掲載します。

8. 当日配布資料

レジュメ等当日配布資料を配布される場合は50部以上ご用意下さい。不足の場合でも、大会本部でのコピーはいたしかねますので、あらかじめご了承ください。配布される場合は分科会名・氏名を明記し、各分科会の発表前に会場係りにお早めにご提出下さい。

9. クローク

6月30日（土）・7月1日（日）、1号館B1階 207教室にてお預かりします。なお、貴重品はお預かりできませんので、必ず各自でお持ち下さい。

10. 会員休憩室

6月30日（土）・7月1日（日）、1号館1階 308教室に用意します。

会員休憩室を含め校舎内は全面禁煙です。所定の喫煙場所をお願いします。

11. 昼食

6月30日（土）は若木 21・レストランヒルトップをご利用下さい（学生等一般利用者と一緒の利用となることを、あらかじめご了承ください）。

7月1日（日）は学内食堂は営業せず、近隣に食事を用意する店舗はありませんので、弁当を用意します。同封の参加申し込み葉書にてお申し込み下さい。1,000円（お茶付き）です。

12. 宿泊

大変申し訳ありませんが、大会実行委員会では宿泊は取り扱いません。各自でご予約下さい。田園都市線たまプラーザ駅徒歩5分の位置にあります。

國學院大学 たまプラーザキャンパスへのアクセス



たまプラーザ駅からのアクセス

たまプラーザ駅南口から徒歩約5分

たまプラーザ駅までは

- 渋谷駅から東急田園都市線(長津田・中央林間方面行き)でたまプラーザ駅まで約25分。
(運賃240円)
- 横浜駅から横浜市営地下鉄ブルーライン終点あざみ野駅で東急田園都市線(水天宮・渋谷方面行き)に乗換え、たまプラーザ駅まで約30分。
(運賃440円[横浜市営地下鉄ブルーライン320円+東急田園都市線120円])

あざみ野駅からのアクセス

あざみ野駅から徒歩約20分

* 所要時間は電車の種別・曜日などで異なりますので、ご注意ください。

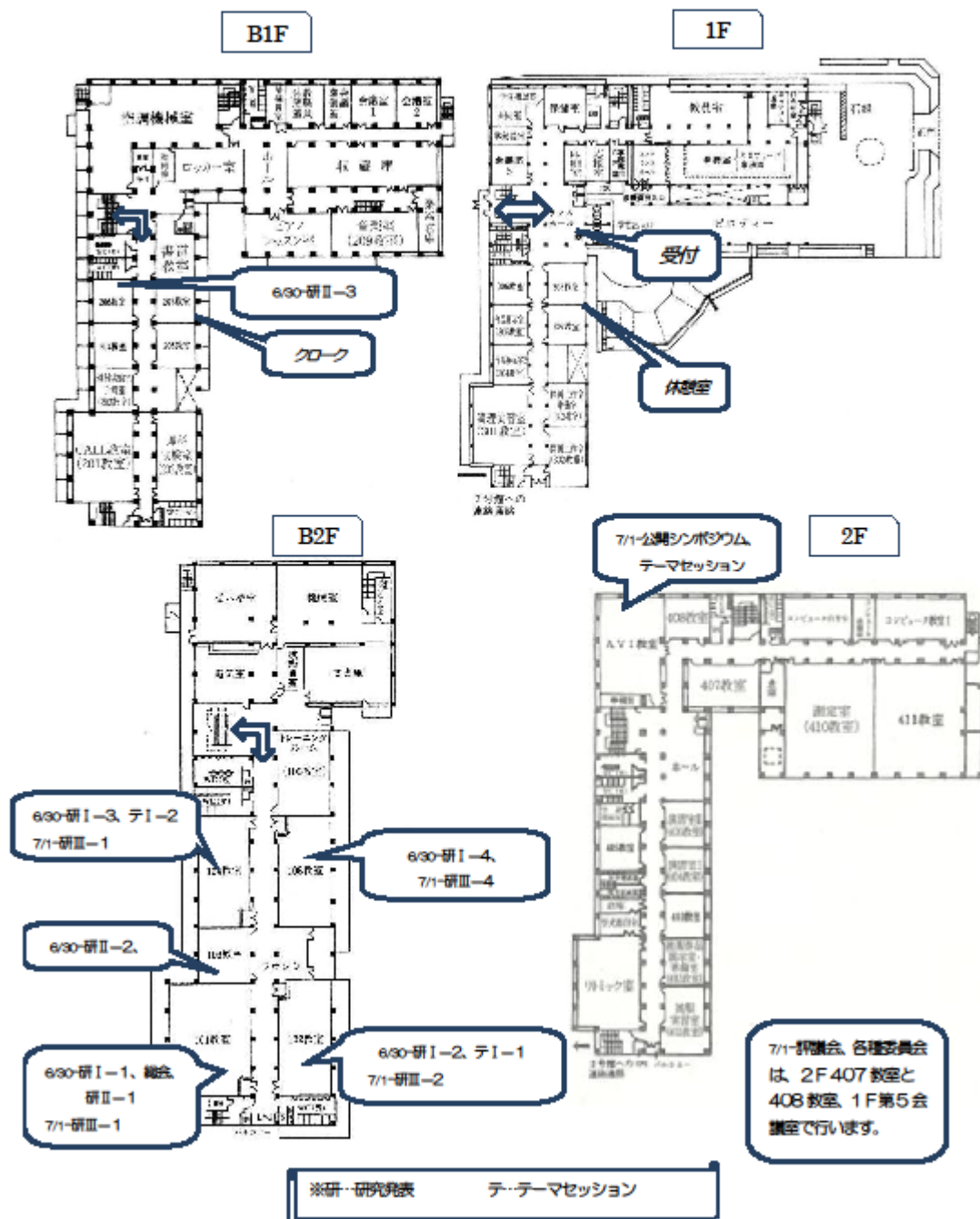
國學院大學たまプラーザキャンパス校内案内図



東急田園都市線「たまプラーザ」駅から会場への順路

- ① 東急田園都市線「たまプラーザ」駅改札南口を出てすぐの信号を横断し、まっすぐ進む。
- ② 次の信号を渡り左へ。もみじ保育園角を右へ。
- ③ 國學院大學正門を入り、ピロティエをまっすぐ進み、1号館正面入り口へ。

会場案内図



研究発表 I

6月30日(土) 9:30~12:00

1号館 B2F 101教室

I-1 学校教育と子ども(1)

司会 樋田大二郎(青山学院大学)

武内 清 (敬愛大学)

- 9:30~9:55 道徳教育における「集団や社会」のとらえ方
— 学習指導要領の内容項目に関する考察 —
富江 英俊 (関西学院大学)
- 9:55~10:20 問題解決能力育成に着眼した食育プログラム開発
— ESD・フェアトレード教材を中心に —
白松 賢 (愛媛大学)
- 10:20~11:10 学校臨床学的アプローチによる学級づくり研究の可能性
— 測定尺度の開発を中心に —
○太田 佳光 (愛媛大学)
○長谷川祐介 (大分大学)
久保田真功 (富山大学)
白松 賢 (愛媛大学)
- 11:10~12:00 総括討論

研究発表 I

6月30日(土) 9:30~12:00

1号館 B2F 102教室

I-2 児童文化・子ども文化

司会 加藤 理 (東京成徳大学)
川勝 泰介 (京都女子大学)

- 9:30~9:55 特撮ヒーロー番組の主題歌分析
葛城 浩一 (香川大学)
- 9:55~10:20 手作り紙芝居の可能性
— キッズ紙芝居コンテストの取り組みを通して —
○ 鬢 久美子 (名古屋柳城短期大学)
野崎 真琴 (名古屋柳城短期大学)
小島千恵子 (名古屋柳城短期大学)
- 10:20~11:10 紙芝居に関する保育者の意識と実践
鬢 久美子 (名古屋柳城短期大学)
○ 野崎 真琴 (名古屋柳城短期大学)
○ 小島千恵子 (名古屋柳城短期大学)
- 11:10~12:00 総括討論

研究発表 I

6月30日(土) 9:30～12:00

1号館 B2F 104教室

I-3 地域社会と教育・保育

司会 岡崎 友典(放送大学)
上杉 孝實(京都大学(名))

- 9:30～9:55 保育所民営化をめぐる論理
— 横浜市訴訟を例に —
東野 充成(九州工業大学)
- 9:55～10:20 地域文化と子どもの育成一伝承/生成と相互作用
春日 清孝(明治学院大学・非)
- 10:20～10:45 地域の教育力の形成と学校の地域への「組織的対応」
鈴木 秀男
(東京都江戸川区教育研究所)
- 10:45～11:10 岡山市内の子どもたちの自然体験活動の実態
中田 周作(中国学園大学)
- 11:10～12:00 総括討論

研究発表 I

6月30日(土) 9:30~12:00

1号館 B2F 105教室

I-4 国際比較研究

司会 萩原 元昭 (創造学園大学)

細辻 恵子 (甲南女子大学)

- 9:30~9:55 アメリカにおける家族支援・親教育に関する一考察
— サンタモニカ家族サービスの活動を中心に —
藤井 美保 (熊本大学)
- 9:55~10:20 幼稚園教育における遊びと学び
— 日中の幼児教育観の違い —
楊 静 (奈良女子大学)
- 10:20~11:10 家族機能に関する国際比較研究
— 東京・ソウル・上海 —
○深谷 昌志 (東京成徳大学)
李 光衡 (慶南大学校)
秦政春 (上海海洋大学・同済大学)
劉 曉芳 (同済大学)
小島みゆき
(花王(株)生活者研究センター)
○朴 珠鉉 (ソウル神学大学校)
○深谷 野亜 (松蔭大学)
- 11:10~12:00 総括討論

研究発表 II

6月30日(土) 13:40～17:30

1号館 B2F 101教室

II-1 保育者養成

司会 小川 博久 (東京学芸大学 (名))

小田 豊

(NPO 法人特別支援教育総合研究所)

- 13:40～14:05 子どもと保育者の関係性
— 「間」をてがかりに —
岩崎 成美 (兵庫教育大学大学院)
- 14:05～14:30 保育者をめざす学生の進路決定に関する研究
中村三緒子 (名古屋女子大学短期大学部)
- 14:30～14:55 保育学生の子ども観の変容に関する調査研究
湯地 宏樹 (比治山大学短期大学部)
- 14:55～15:45 保育者養成における人形劇教育
○向平 知絵 (京都女子大学)
○浜崎 由紀 (京都光華女子大学・非)
棚橋美代子 (京都女子大学)
- 15:45～16:10 少子化、過疎化のすすむ地方自治体の保育者の成長プロセスに関する研究
: 保育者の転機における自己形成の語りの分析より
香曾我部琢 (上越教育大学)
- 16:10～17:30 総括討論

研究発表 II

6月30日(土) 13:40～15:20

1号館 B2F 103教室

II-2 子どもの保育

司会 青井 倫子 (愛媛大学)
松村 和子 (文教学院大学)

- 13:40～14:05 のぞましい園行事のあり方に関する研究
岡田 美紀 (環太平洋大学)
- 14:05～14:30 幼児の身体的能力と日常生活での取り組み姿勢との関連
松寄 洋子 (埼玉学園大学)
- 14:30～15:20 総括討論

研究発表 II

6月30日(土) 13:40～15:20

1号館 B1F 206教室

II-3 地域の保育

司会 相原次男 (宇部フロンティア大学)

須田康之 (北海道教育大学)

13:40～14:05 明治後期の大阪市の幼稚園保育に対する他の地方幼稚園
保育実践からの影響に関する考察

金子 嘉秀 (広島大学大学院)

14:05～14:30 戦後沖縄の就学前教育の実態調査

— 字公民館の幼稚園を中心に —

嘉納 英明 (名桜大学)

14:00～15:20 総括討論

テーマセッション 1

6月30日(土) 15:30~17:30

1号館 B2F 102教室

困難を有する子どもの支援を問いかける(2) (研究交流委員会企画)

子どもの困難と貧困・格差を抱える社会の現状について、3人の方に語っていただく。

司会・報告者：古賀正義（中央大学）東京都退学者調査からみえるもの
報告者1：奥山 隆（国立武蔵野学院調査課長）児童自立支援施設の実践研究
報告者2：後藤信之（内閣府・青少年問題担当）子ども・若者ビジョンと支援
報告者3：梶野光信（東京都教育委員会生涯学習課）地域支援と学校制度改編
コメンテーター：加野芳正（香川大学）

<ねらい>

昨年度の公開シンポジウムとワークショップでは、「困難を有する子ども」の支援をテーマとして開催した。「困難を有する子ども」という表現は、内閣府による「子ども・若者ビジョン」の概念を活用したものである。

そのビジョンでは、策定に当たっての視点として「子ども・若者を育成の対象としてとらえるのではなく、社会を構成する重要な主体として尊重する」「子ども・若者を通信に据え、専門家も交えた地域のネットワークのなかで成長することを支援する」「すべての子ども・若者の成長・発達を応援するとともに、困難を抱えている子ども・若者がその置かれている状況を克服することができるよう支援する」「今を生きる子ども・若者を支えとともに、将来をよりよく生きるための成長をサポートする」ことの4点を上げている。

昨年のシンポジウムおよびワークショップでは、格差社会の代表としてアメリカを事例として選び、困難を有する子どもたちの実態や政策の動向について、二人のルポライターによる報告から明らかにするとともに、日本の現状を社会学者の方からも指摘していただき、議論を深めた。

本年度は、(1)古賀氏が東京都退学者調査からみた子どもの困難の一端を報告し、(2)奥山氏が児童自立支援施設からみた家庭・子どもの現状を、(3)後藤氏が、困難を有する子どもに対する政策的な動向について、(4)梶野氏が生涯学習からの教育格差是正の施策について、それぞれ発表する予定である。

テーマセッション 2

6月30日(土) 15:30~17:30

1号館 B2F 104教室

子どもと仕事(1) キャリア教育の現状を探る (研究交流委員会企画)

司会 : 浜島幸司(新潟大学)

報告者1: 葛城浩一(香川大学)(キャリア教育の導入の経緯)

報告者2: 吉田美穂(高校教師)(キャリア教育の実践者:具体的な実践内容)

報告者3: 寺崎里水(福岡大学)(中学生のキャリア意識の分析報告から)

コメンテーター: 細辻恵子(甲南女子大学)

<ねらい>

本テーマセッションの目的は、昨今のキャリア教育(仕事を見つけること、働くことの意味など)が、子ども社会に何をもたらすのか皆さんと考える機会を提供することにある。

すでに若年層の雇用情勢は良好とはいえ、雇用格差、無業(ニート)、勤労意欲等々について多くの調査および議論がなされている。政策面および学校教育の分野においても、早期からのキャリア教育を導入、実施、強化する動きが盛んである。キャリア教育は子ども社会と深い関係があるものといえよう。

本セッションのキーワードとして掲げる「子ども」と「仕事」の2つは、身近なものでありすぎるがゆえに、うまく捉えきれていない感がある。とくに、将来の職業人生を歩む子どもたちの身に何が起きているのか、説明できることが少ない。

本セッションでは、上記の問題関心を踏まえ、子ども社会における「キャリア教育」に焦点をあてて、3名による専門(キャリア教育導入の社会的背景、学校教育現場でのキャリア教育実践、子どもたちのキャリア意識分析)の立場から報告を聞き、その後、全体での意見交換を通じて、お互いの理解を深めることとしたい。

公教育現場での動向を中心に子どもをめぐる昨今のキャリア教育の現状を理解し、課題を含め更なる探求の場を用意してみたい。

研究発表 Ⅲ

7月1日(日) 9:30~12:00

1号館 B2F 101教室

Ⅲ-1 家族と子ども

司会 田中 亨胤 (近大姫路大学)

田中 理絵 (山口大学)

- 9:30~9:55 父親アイデンティティの規定要因と子育て参加
— 未就学児と就学児の父親を対象として —
佐々木卓代 (お茶の水女子大学)
- 9:55~10:20 幼児期から児童期における家庭教育
— 母親への縦断的面接調査を通して —
片桐 真弓 (尚絅大学短期大学部)
- 10:20~10:45 乳幼児をもつ母親の「子育て状況」のパス解析
— ストレス反応を媒介とした育児行動の要因分析 —
池田 隆英 (岡山県立大学)
- 10:45~11:10 子どもの手伝いに関する実証研究
— 子どもの自己像に関連させて —
○上島 博(香芝市立五位堂小学校)
木瀬 達也 (奈良市立六条小学校)
谷野 敏子 (堺市立第一幼稚園)
中川貴三子 (奈良市立富雄南小学校)
深谷 昌志 (東京成徳大学)
平井 淳子(花王(株)生活者研究センター)
- 11:10~12:00 総括討論

研究発表 Ⅲ

7月1日(日) 9:30~12:00

1号館 B2F 102教室

Ⅲ-2 子どもへの支援

司会 鶴野 祐介 (梅花女子大学)

山縣 文治 (関西大学)

- 9:30~9:55 通常学級と特別支援学校の間
— ある発達障害生徒における学校経験の語りから —
堤 英俊 (東京大学大学院)
- 9:55~10:20 戦後日本における「保育の質」に関する歴史的研究
—1960~70年代前半の幼稚園における障害児保育を中心—
田中 謙 (東京学芸大学大学院)
- 10:20~10:45 児童養護施設における児童間暴力発生の文脈
山口 季音 (関西大学大学院)
- 10:45~11:10 事例研究: 被虐待児等の子どもを養育する里親の育児困難とそれへの対応
—東京・沖縄・静岡の33名の里親の面接記から—
○深谷 和子 (東京成徳大学)
深谷 昌志 (東京成徳大学)
青葉 紘宇 (東京里親会)
- 11:10~12:00 総括討論

研究発表 Ⅲ

7月1日(日) 9:30～12:00

1号館 B2F 104教室

Ⅲ-3 児童文化・子ども文化とメディア

司会 石井 久雄 (明治学院大学)

深谷 野亜 (松蔭大学)

9:30～9:55 スポーツにおけるメディア・リテラシー教育の意義と可能性
田中 将太 (東京学芸大学大学院)

9:55～10:20 「居場所」としての学校図書館
ー 小学校でのフィールドワークを通して ー
狩野 博美 (関西大学大学院)

10:20～10:45 育児雑誌にみる<父親>像
山瀬 範子 (四国大学短期大学部)

10:45～11:10 小学館刊行学年別学習雑誌『小学一年生』の普及と読者の様相
田中 卓也 (吉備国際大学)

11:10～12:00 総括討論

研究発表 Ⅲ

7月1日(日) 9:30~12:00

1号館 B2F 105教室

Ⅲ-4 学校教育と子ども(2)

司会 大野 道夫 (大正大学)
押谷 由夫 (昭和女子大学)

- 9:30~9:55 中高一貫校における高校生の生活と意識
尾場 友和 (広島大学大学院)
- 9:55~10:20 工業高校生の進路展望に関する研究
尾川 満宏 (広島大学大学院)
- 10:20~10:45 高等専修学校における生徒指導の受容過程
— 教師不信から信頼へ —
伊藤 秀樹 (東京大学大学院)
- 10:45~11:10 高校生の学習観 (2)
— A 県の公立学区トップ高の高校生調査から —
南本 長穂 (関西学院大学)
- 11:10~12:00 総括討論

公開シンポジウム

7月1日(日) 13:20～15:20
1号館 2階 AV1教室

東日本大震災「子ども・子ども社会支援を問う」

- 1) コーディネーター・司会 新富 康央（國學院大學）
- 2) 報告者
「子ども支援の視点から」 進士 徹（NPO 法人あぶくまエヌエスネット
理事長、ふくしまキッズ実行委員会委員長）
「復興支援派遣の視点から」 緒方 克行（横浜市教育委員会北部教育事務所
首席指導主事・横浜市教員災害派遣「石巻
子ども学習支援隊」）
「学校教育現場の視点から」 目黒 明彦（福島市立清明小学校教頭）
- 3) 指定討論者
藤田 和也（國學院大學）
加藤 理（東京成徳大学）

2011年東日本大震災後、被災地の子どもたちの笑顔にどれだけ“私たち”は元気付けられ、救われたことであろう。災害復興が始まっているが、当然のことながら、そこに“子ども”という視点が欠けてはならない。被災地域は、この10年間で10%も人口が減少している地域である。この災害によって、社会環境の変質は、本来的にあった地域の子どものたちが抱える課題をさらに顕在化させたと言ってもよいであろう。本シンポジウムを通して、“私たち”は被災を通して、“子ども”という客体をいかに認識し、いかに支援の‘対象’として把握するか、討論を深めたい。これら討論を通して、子ども支援及び子ども社会支援から、“子ども”のどんな「あるもの」が見えてくるだろうか。

そこで、本シンポジウムでは、被災地で“子ども”“子ども社会”を取り戻すために第一線で活躍している方々をお招きして、子どもたちが置かれている実態と子ども支援の取組の実際、そして今後の支援のあり方について示唆していただく(各自約20分)。地域復興への力としての子どもの「あるもの」、例えば「子ども力」などに話し合いが発展することを期待したい。

後援：公開シンポジウムについては、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、神奈川県教育委員会後援(申請中)。
--

テーマセッション II

7月1日(日) 15:30～17:30

1号館 2階 407教室

震災と子ども社会の研究 (20周年記念事業実行委員会企画)

司会・話題提供	加藤 理(東京成徳大学)
指定討論者	麻生 武 (奈良女子大学)
	岡邨 衛 (大阪大学大学院)
	山田富秋 (松山大学)

2011年3月11日に発災した東日本大震災では、多くの子どもたちが様々な困難に直面してきた。災害ストレスやPTSD、就学困難、地域社会の喪失、震災孤児・遺児の問題など、今回の震災で子どもたちが直面している問題を解決していくためには、多領域の学問的知見を総動員していく必要がある。多領域の専門家が集まる学際性を特色とする日本子ども社会学会は、学際的研究を必要とするこれらの問題に積極的に関与していく責務があるものと思われる。

そこで、20周年記念事業実行委員会では、「震災と子ども社会の研究」をテーマとした課題研究を記念事業の一つにし、2014年の学会20周年の年にその成果を発表したいと計画している。

今年は、そのキック・オフとして、大会シンポジウム「東日本大震災『子ども・子ども社会支援を問う』」を受けて、シンポジウムの感想、シンポジウムの中で浮き彫りにされた様々な問題、具体的な研究課題などについて議論を深めていきたい。

議論では、加藤が「震災と子ども社会の研究」という枠組みの中に含まれる研究課題について概観した後、麻生武会員、岡邨衛会員、山田富秋会員それぞれが、シンポジウムの感想を中心にそれぞれの研究領域で考えられることを述べる。その後、フロアに参集くださった会員との間で議論を深めていきたい。

議論を通して、課題研究「震災と子ども社会の研究」をどのように進めていくか検討し、課題研究を具体的に進めていく端緒としたい。

ラウンドテーブル

7月1日(日) 15:30~17:30

1号館 2階 408教室

子守唄・わらべうたによる子育て・親育ち

1) コーディネーター・司会：鵜野祐介 梅花女子大学

2) 話題提供者 (50音順)

- ①落合美知子 「おんがくとおはなしのちいさいうち」 主宰
- ②木村はるみ 教育研究所「ゆずりは」 代表
- ③細田淳子 東京家政大学

3) 内容

近年、全国各地の地域子育てサークルや保育現場において、子守唄やわらべうたへの関心が高まりつつあります。ただし、子守唄やわらべうたの本質的な特性や価値を理解しないまま、市販のマニュアル本に頼った安易な取り組みも少なくないように見受けられます。その原因のひとつに、実践者(個人・団体)が相互に、使用テキストやスキルに関する情報交換を行ったり、子守唄やわらべうたの本質的な価値について共に学んだりするための組織やネットワークが、ほとんど存在しないことが挙げられるのではないのでしょうか。

以上の問題意識にもとづいて本ラウンドテーブルは、前半において、長年子守唄やわらべうたによる子育て・親育ちについての理論研究や実践を行って来られた3人の方に、①子守唄やわらべうたの本質的な特性や価値をどう捉えるか、②家庭や保育現場においてこれらをどのように活用していけばよいか、③子守唄やわらべうたの大切さをより多くの人びとに伝えていくためにはどうすればよいか、といった点を中心に話題提供(各15分)をしていただきます。後半では、参加者全員で自由な談論を交わすと同時に、「子守唄やわらべうたによる子育て・親育ちの支援ネットワーク」の構築に向けてクリアすべき課題についても議論していきます。

子守唄やわらべうたのみならず、「語り歌う声の力」に関心を持つ多くの方々のご参加をお待ちしております。(鵜野祐介)

日本子ども社会学会 第19回大会 実行委員会

実行委員長 新富 康央（國學院大學）
実行委員 夏秋 英房（國學院大學）
小笠原優子（國學院大學）
中村英美子（國學院大學）
三枝 恵子（國學院大學（非））

日本子ども社会学会 第19回大会 プログラム

発行 2012年5月

発行者 日本子ども社会学会 第19回大会 実行委員会

〒225-0003 神奈川県横浜市青葉区新石川 3-22-1

國學院大學 人間開発学部 初等教育学科 新富研究室気付

TEL&FAX(兼用) 045-904-7735 (新富研究室直通)

E-mail yshintomi @kokugakuin .ac.jp